

論文

中国地方の森林組合における「山の神」祭行事の特徴と西南日本での分析*¹西川希一*²・奥山洋一郎*³・枚田邦宏*³

西川希一・奥山洋一郎・枚田邦宏：中国地方の森林組合における「山の神」祭行事の特徴と西南日本での分析 九州森林研究 76：9－13, 2023 本研究の目的は、中国地方の「山の神」祭行事の開催状況を明らかにするとともに、山村文化の3類型のうち、九州・四国・中国地方を含む「西南日本型」の「山の神」祭行事の特徴と地域間の祭祀様式を分析することである。調査は、中国地方に存在している52森林組合・5森林組合連合会を対象に電話・アンケート調査をおこなった。西南日本地域での比較では、著者らがこれまでに収集した九州・四国地方の森林組合における「山の神」祭行事のデータを用いた。これらの調査の結果、①中国地方では22組合で「山の神」祭行事が行われていたこと、②中国地方では呼称は「山の神」、開催時期は「1月9日」が多かったこと、③森林組合の「山の神」祭行事の開催状況は森林組合の素材生産量と関係する傾向があることが確認できた。また、④林業の履歴に関わらず、過去に「山の神」祭行事の履歴の無い箇所については新たに様式が流入する可能性が低いと考えられ、⑤開催月がそれぞれに広い分布域を持ちながら一部モザイク的な分布をしているのに対し、開催日は地方ごとに集中日が存在し、極めて集中的に分布していることが明らかになった。

キーワード：林業、山の神、森林組合、中国地方

I. 背景・目的

本邦における山の神の研究は、他の習俗と比較した際に遅れた時期に始まっており、学術的な文献の中で山の神についてふれたのは柳田（1909）が初であろうといわれている。その後、主に民俗学の観点から山の神の諸研究が進められてきた。柳田（1910）は山民が山の神を畏怖していると考察し、柳田（1946）では村民が春に山から神を迎え作物の豊作を祈り、秋に神を山に送り返し豊作を感謝する祭行事の形式から、山の神に親和的な側面を見出した。一方でナウマン（1963）は、山の神の祀り方に狩猟的文化と農耕的文化の2側面があることを認めその習合の過程について考察した。また、山の神が先述の2側面の習合に留まらず、来訪神や祖霊信仰などの影響を受けた結果の形態であると考察し、山の神の来歴について論じた。ナウマン（1963）や佐々木（1971）は、山民的な山の神と農民的な山の神との間に、その中間的な性質をもつ焼畑民を考慮することで山と里と山の神の連続性についてより客観的な関係をみることができると考えた。そして、山民について狩猟民、山稼ぎ人、焼畑民と山との関わり方で大別した。石川（1980）は、山民の生業に基づいた山村文化を3類型に分類しており、東北日本型、中部・近畿日本型、西南日本型と大別を行っている。

西南日本型に分類される九州および四国を対象とした著者の調査（西川ほか、2021b；2022）により、森林組合ではしばしば安全祈願や山への感謝の念から「山の神」と称される祭行事がおこなわれていることを明らかにした。これらの「山の神」祭行事は地域によって祭祀の様式が異なっており、特に呼称や実施日に関して差異が大きいことが明らかになった。一方で、それ以外の調査項目では特徴的な回答は見られず、地方が違っても同様の様式

で執り行われていることも判明し、山田（2017）の「特定文化の地域的特徴の均一化」が起こっていることが示唆された。また、民俗学的蓄積を用いた同一地域の祭行事の様式との関連性に関する考察では、それぞれの森林組合の「山の神」祭行事の様式が同地域で執り行われていた「山の神」祭行事の様式と同一のものである可能性が示唆された。

筆者らはこれまでの調査により九州・四国地方の森林組合の「山の神」祭行事の実施状況についてのデータを収集しており、中国地方の森林組合の「山の神」祭行事についてのデータを収集すれば、石川（1980）による分類のうち焼き畑文化と猪の狩猟文化を中心とする西南日本型の「山の神」について分析することができる。そこで本報告では中国地方の森林組合における「山の神」祭行事の基本的情報をまとめ、それをこれまでに調査を行った九州・四国地方の「山の神」祭行事の様式と比較し、西南日本型の「山の神」の特徴についての考察を行う。

II. 調査・分析方法

調査は、中国地方に存在する森林組合及び森林組合連合会、計57団体を対象にした。その内訳は、山口県が6組合、島根県が14組合、広島県が16組合、鳥取県が9組合、岡山県が12組合の計57組合・連合会であった。森林組合での祭行事の内容、山の神の特徴を明らかにするための質問紙調査（表-1）を実施した。回答は、各森林組合よりメール・FAXもしくは電話インタビューで得た。本研究では、西川ほか（2021a；2021b）と同じ調査項目について調査をおこなった。

分析は、著者らがこれまでに収集した九州地方と四国地方のデータを用い、これまでの結果（西川ほか、2021b；2022）に

*¹ Nishikawa, K., Okuyama, Y. and Hirata, K. : Characteristics of "Yama-no-Kami" rituals in forest cooperatives in the Chugoku region and Analysis in Southwest Japan

*² 鹿児島大学院農林水産学研究科 Grad. Sch. Agric., Kagoshima Univ., Kagoshima, 890-0065, Japan

*³ 鹿児島大学農学部 Agric., Kagoshima Univ., Kagoshima, 890-0065, Japan

よって地域性が大きいことが明らかになっている「祭行事の呼称」、「祭行事の実施日」の2項目についておこなった。また、森林組合の素材生産量と「山の神」祭行事の開催率についての考察に関しては令和元年度森林組合統計（農林水産省，2021）のデータを用いた。

表-1 アンケートによる聞き取り質問項目

1.	祭行事の概要
1.1	祭行事の有無
1.2	祭行事の呼称
1.3	祭行事の実施日
1.4	祭行事を始めた時期
2.	祭行事の内容
2.1	当日の勤務状況
2.2	供え物
2.3	祭行事の参加規模
2.4	禁忌
2.5	祭行事を行う目的
2.6	ご神体の有無
3.	山の神の特徴
3.1	山の神の名前
3.2	山の神の性別
3.3	山の神の遣いの有無

Ⅲ. 調査結果

1. 中国地方の森林組合の「山の神」祭行事の特徴

1.1 祭行事の有無

祭行事の有無について、すべての調査対象から回答を得た。22の森林組合で「山の神」祭行事を行っているとの回答を得た。県別の内訳と組合数に対する開催割合はそれぞれ、山口県が2組合（33%）、島根県が5組合（36%）、広島県が3組合（19%）、鳥取県が3組合（33%）、岡山県が9組合（75%）であった。中国地方での「山の神」祭行事の開催率は約4割であり、岡山県が他の県に対し、開催率が非常に高かった。

1.2 祭行事の呼称

祭行事の呼称について、「山の神」祭行事を開催していると回答した22組合（以下、開催組合）すべてから回答を得た。得られた回答は表-2のとおりであった。

表-2 祭行事の呼称

(県)	(組合数)				
	山の神	安全祈願祭	山入り	山祭り	不明
山口県	1			1	
島根県	2		1		2
広島県					3
鳥取県	2	1			
岡山県	6				3
計	11	1	1	1	8

呼称は「山の神」が最も多く（11組合）、他の呼称については1組合ずつの回答となった。「その他」と回答した組合はそれぞれ、

「個人的には〇〇と言ってはいるが、組合としての呼称かと言われると自信がない」といった回答であったため、組合からの正式な回答があるまで「不明」とすることにした。呼称について正確な回答を得られなかった広島県を除き、中国全県で「山の神」の呼称が優勢であることが確認できた。

1.3 開催時期

祭行事の開催時期について、開催組合すべてから回答を得た。

表-3 祭行事の開催月

(県)	(組合数)					
	1月	2月	旧2月	旧2・10月	11月	その他
山口県	2					
島根県	3				1	1
広島県	2					1
鳥取県		1	1	1		
岡山県	9					
計	16	1	1	1	1	2

祭行事の開催月の結果については、表-3のとおりであった。開催月は「1月」が最も多く（16組合）、他の開催月についてはそれぞれ1組合ずつという回答となった。「その他」とした組合について、「今事務所にいる人間でははっきりしない」といった回答であったため、組合からの正式な回答があるまで「その他」とすることにした。開催月は鳥取を除く県では1月が多いことが確認でき、中国地方の特徴であった。一方で、鳥取県は2月に関する回答で占められており、鳥取の民俗との関係が近接している兵庫県での「山の神」祭行事との比較を行う必要があることが示唆された。

表-4 祭行事の開催日

(県)	(組合数)					
	4日	7日	8日	9日	10日	17日
山口県					1	
島根県	1					1
広島県		1				
鳥取県				3	1	
岡山県			1	8		
計	1	1	1	11	2	1

注：複数回答あり

祭行事の開催日の日付の結果については、表-4のとおりであった。開催日まで回答した組合は16組合であった。内訳は、山口県で1組合、島根県で2組合、広島県で1組合、鳥取県で3組合、岡山県で9組合であった。そのうち、鳥取の1組合からは2つの開催日を得た。開催日は9日が最も多く（11組合）、次いで10日が多かった（2組合）。

2. 九州・四国地方の「山の神」祭行事との比較分析

2.1 祭行事の有無

西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の開催状況の結果は表-5のようになった。森林組合数203のうち、93組合で「山の神」祭行事が行われていることが分かった。各地方の平均

表-5 西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の開催状況

(県)	組合数	開催組合	開催割合	組合素材生産量 (m)
鳥取	9	3	33%	151,137
島根	14	5	36%	145,005
岡山	12	9	75%	220,667
広島	16	3	19%	165,633
山口	6	2	33%	59,208
計	57	22	39%	
徳島	10	2	20%	116,984
香川	8	0	0%	2,884
愛媛	16	5	31%	263,893
高知	24	15	63%	342,309
計	58	22	38%	
福岡	10	5	50%	289,965
佐賀	9	2	22%	35,226
長崎	9	2	22%	85,242
熊本	16	11	69%	499,913
大分	14	8	57%	599,409
宮崎	9	8	89%	675,344
鹿児島	16	10	63%	463,495
沖縄	5	3	60%	
計	88	49	56%	
合計	203	93	46%	

(組合素材生産量は令和元年度森林組合統計より)

注：各地方で祭行事開催割合と組合素材生産量が最も大きい箇所は太字、最も小さい箇所はイタリックにした

表-6 西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の呼称

(県)	(組合数)							計
	山の神	安全 祈願祭	山神祭	山祭り	山入り	なし	その他	
鳥取	2	1						3
島根	2				1		2	5
岡山	6						3	9
広島							3	3
山口	1			1				2
計	11	1	0	1	1	0	8	22
徳島		2						2
香川								0
愛媛	3	2						5
高知	3	6		2			3	14
計	6	10	0	2	0	0	3	21
福岡	3	2						5
佐賀	2							2
長崎		1				1		2
熊本	8	3						11
大分	7	1						8
宮崎	4	3	1					8
鹿児島	8		2					10
沖縄		2						2
計	32	12	3	0	0	1	0	48
合計	49	23	3	3	1	1	11	91

開催率を見ると、九州地方では5割を超えており、中国・四国地方では4割弱となっていた。地方ごとにみても、中国・四国地方ではそれぞれ岡山県・高知県が突出しており、九州地方では佐賀県・長崎県が顕著に低かった。九州地方では多くの県が50%を超えている一方で、中国・四国地方では県によって開催状況に大きな隔たりが存在した。開催割合と組合素材生産量の関係を見ると、各地方とも最も開催割合の大きい県において素材生産量も最大となっていた。西南日本全体でも、組合素材生産量の多い県において「山の神」祭行事の開催割合の大きい傾向があることが読み取れた。一方、広島県では組合素材生産量は中国地方で2位であるにも関わらず、開催割合は最も低い数値となっていた。

2.2 祭行事の呼称

西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の呼称の結果は表-6のようになった。93組合のうち「山の神」祭行事の呼称について回答を得られたのは91組合であった。西南日本で最も多い呼称は「山の神」であり(49組合)、次いで「安全祈願祭」であった(23組合)。地方別にみると、九州・中国地方では「山の神」が最も多く、四国地方では「安全祈願祭」が最も多かった。「山神祭」、「山祭り」、「山入り」は少数しか確認できなかった。

2.3 祭行事の開催時期

西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の開催月の結果は表-7のようになった。93組合のうち「山の神」祭行事の開催月について回答を得られたのは92組合であった。今回は得られた回答の中から、特定の開催月を回答したものを抽出し、有効回答数は80組合となった。西南日本で最も多い開催月は「1月」であり(34組合)、次いで「1, 5, 9月」(23組合)、「9月」(9組合)であった。地方別にみると、九州地方では「1, 5, 9月」、中国地方では「1月」が優勢であり、四国地方はその両方がほぼ同数確認できた。九州・四国地方では「1月, 5月, 9月」のいずれかで開催する組合が多く、中国地方では「1月, 2月, 10月」のいずれかで開催する組合が多かった。中国地方で1年に3回「山の神」祭行事を行う組合は存在しなかった。「1月」は地方に関わらず確認することができた。

森林組合が位置する箇所にそれぞれの開催月によってマークをすると図-1のようになった。回答数が1団体のみであった開催月は、「上記以外」として作成した。開催月を地理的分布で見ると、「1, 5, 9月」が九州南西部に集中していること、「1月」が中国地方から熊本県南部まで広く帯状に分布していることが確認できた。

西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の開催日は表-8のようになった。93組合のうち「山の神」祭行事の開催月について回答を得られたのは92組合であった。今回は得られた回答の中から、正確な開催日を回答したもののみを抽出し、有効回答数は74組合となった。西南日本で最も多い「山の神」祭行事の開催日は「16日」であり(34組合)、次いで「9日」(18組合)、「20日」(6組合)であった。地方別にみると、九州地方では「16日」、四国地方では「20日」、中国地方では「9日」と、それぞれ集中する開催日が異なっており、開催月が地方を超えて分布して

表-7 西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の開催月

(組合数)

(県)	1月	1,9月	1,3,5月	1,5,9月	1,5,10月	2月	旧2月	旧2,10月	旧5月	旧5,9月	6,12月	7月	9月	10月	11月	計
鳥取						1	1	1								3
島根	3													1	1	5
岡山	9															9
広島	2															2
山口	2															2
計	16	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	21
徳島	1															1
香川																0
愛媛	3			2												5
高知	1		1	2					1	1	1	2				9
計	5	0	1	4	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	15
福岡	2			1		1										4
佐賀	2															2
長崎	1												1			2
熊本	2			9												11
大分	6	1		1												8
宮崎				5									2			7
鹿児島				3	1								4			8
沖縄													2			2
計	13	1	0	19	1	1	0	0	0	0	0	0	9	0	0	44
合計	34	1	1	23	1	2	1	1	1	1	1	2	9	1	1	80

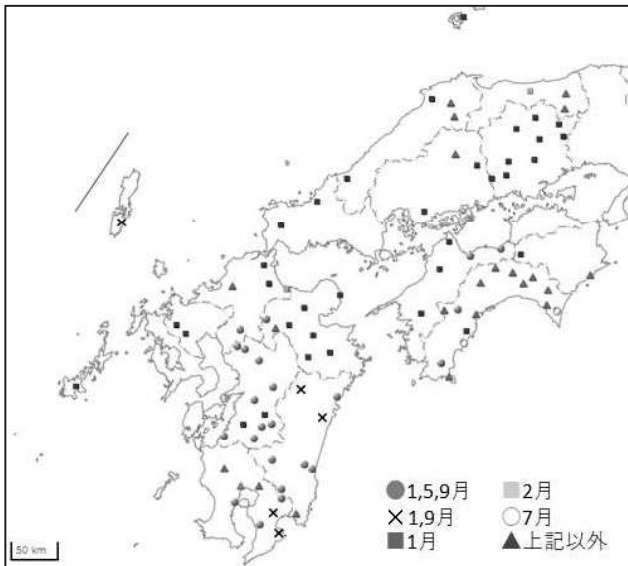


図-1 西南日本の森林組合における「山の神」祭行事開催月分布

表-8 西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の開催日

(組合数)

(県)	4日	7日	8日	9日	10日	14日	15日	16日	17日	20日	計
鳥取				3	1						4
島根	1								1		2
岡山			1	8							9
広島		1									1
山口					1						1
計	1	1	1	11	2	0	0	0	1	0	17
徳島					1						1
香川											0
愛媛	1			4							5
高知					1					6	7
計	1	0	0	4	2	0	0	0	0	6	13
福岡								4			4
佐賀			1								1
長崎	1							1			2
熊本							1	10			11
大分								8			8
宮崎							2	5			7
鹿児島					1	1	1	6			9
沖縄				2							2
計	1	0	0	3	1	1	4	34	0	0	44
合計	3	1	1	18	5	1	4	34	1	6	74

いるのに対し、開催日は地方ごとに明瞭な傾向がみられた。

Ⅳ. 考察

中国地方では、県によって「山の神」祭行事の開催率に大きな差異があった。岡山県では開催率が非常に高く、それ以外の県では3割程度であった。祭行事の呼称については「山の神」が優占し、開催時期については、開催月は「1月」、開催日は「9日」に集中した。

西南日本の森林組合における「山の神」祭行事の比較において、森林組合の素材生産量が多い県において「山の神」祭行事の開催率が高いことが明らかになった。これは、一般に「山の神」祭行事が安全祈願や山への感謝の意から行われていることから、素材生産が盛んな地域では他の地域と比べ、より作業や森林に関して思うところがあるのではないかと考える。また、林業が盛んではない香川県や佐賀県、山口県などで開催率が低いことも同様の理由であろう。しかし、広島県の件もあるように、森林組合の素材生産量が「山の神」祭行事の大きな要因であるとは言いきれず、他の要因について考察していく必要がある。

今回の調査では、組合による素材生産量は山口県が最も少なかったものの、「山の神」祭行事の開催割合は広島県が最も低かった。また、広島県に「山の神」祭行事を行っていない地理的な空白地域が存在することが分かった。この点については、広島県に「山の神」祭行事がそもそも存在していなかったことが考えられる。堀田(1966)が中国地方へ調査に赴いた際、「安芸方面は安芸門徒と言われるだけに、山の神の信仰は殆ど無いといってもよいであろう」、「山の神なんて聞いたこともないという話で、閉口して帰った」と記述を残している。安芸とは旧国名の一つであり、現在の広島県の西半分にあたる。安芸門徒とは安芸国で成立した浄土真宗の門徒の別名であり、堀田の言からも広島西部域では以前から山の神信仰が存在していなかった可能性があり、林業の履歴に関わらず、過去に「山の神」祭行事の履歴の無い箇所については新たに様式が流入する可能性が低いことが考えられる。

これまでの事例から、現在の森林組合で「山の神」祭行事が存続している地域の特徴として、①山の神信仰についての土地的履

歴があること、②森林組合設立時から現在にかけて林業が盛んであること、の2点が挙げられるのではないかと考える。

「山の神」祭行事の分布について、開催月と開催日で全く異なる特徴を示すことが明らかになった。開催月については、地方を超えながらある程度の範囲に広がっていることが多く、分布図から日取りの近い組合同士が隣り合っており(1, 5, 9月の組合と、1月の組合など)、一部モザイクのような分布を示している。一方で開催日については、各地方でそれぞれ集中している日取りが存在し、他の地方と混ざることなく地域内で極めて集中的に分布することが明らかになった。この分布の特徴の差異について、暦の変更や開催日自体が持つ意味の重要性など様々な要因が考えられ、今後の課題としたい。

引用文献

- 堀田吉雄(1966)山の神信仰の研究, 390 pp, 伊勢民俗学会, 桑名
- 石川純一郎(1980)天竜川 その風土と文化, 191 pp, 静岡新聞社, 静岡
- ネリー ナウマン著, 野村伸一・檜枝陽一郎 訳(1994, 初出1963)山の神, 464 pp, 言叢社, 東京
- 西川希一ほか(2021 a)九州森林研究 74: 9-12
- 西川希一ほか(2021 b)九州地方の林業経営体における「山の神」祭行事の現状, 鹿児島大学農学部森林政策学研究室卒業論文
- 西川希一ほか(2022)九州森林研究 75: 17-21
- 農林水産省(2021) https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sinrin_kumiai/ (2022年11月10日利用)
- 佐々木高明(1971)稲作以前, 316 pp, 日本放送出版協会, 東京
- 山田慎也(2017)国立歴史民俗博物館研究報告 205: 1-6
- 柳田国男(1909)後狩詞記, 70 pp, 柳田国男, 東京
- 柳田国男(1910)石神問答, 287 pp, 聚精堂, 東京
- 柳田国男(1946)先祖の話, 253 pp, 筑摩書房, 東京
- (2022年11月12日受付; 2023年1月17日受理)